

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		国際交流推進事業		担当課 市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業	国際交流の推進		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-020703-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年海外派遣実施要綱 外国人のための語学支援者登録制度要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
もりや工業団地にドイツとアメリカに縁のある企業が進出したことをきっかけに、ドイツ・マインブルク市（1990年）、アメリカ・グリーリー市（1993年）と国際姉妹都市を提携したことから、市民レベルでの訪問・交流が始まった。	姉妹都市交流として、国際姉妹都市からの市民・高校生等の訪問を受け入れ、守谷市民との交流の機会を設け、市民レベルでの交流を推進する。 来市した訪問団の守谷市民宅へのホームステイを実施、市内学校訪問や観光等を行う。 守谷市国際交流協会と連携し、訪問団へ日本文化体験の場を提供する。 夏休み期間に姉妹都市に守谷市の青少年を派遣し、ホームステイを通じて市の国際交流事業の担い手育成及びグローバル社会に対応できる人材育成を実施する。 ドイツ・マインブルク市、アメリカ・グリーリー市の2市を1年交代で訪問する。 地域に暮らす在留外国人のための日本語教室、国際理解を推進するための協会事業の支援をする。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の国際意識の高揚を図り、国際姉妹都市との友好関係を築くとともに市民同士の交流を推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、異文化を尊重・理解して、外国人と接することができるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①青少年海外派遣 一部の市民（中高生10名程度）しか参加できず、応募者も減少している。また、事業の実施可否が国際情勢に大きく左右される。 ②姉妹都市交流 国際交流員がドイツ人ということもあり、ドイツ（マインブルク市）についてはイベント等を多数実施できているが、アメリカ（グリーリー市）については市民に理解の場を提供できていない。	①青少年海外派遣 3月：新型コロナウイルスの影響により事業中止決定 6～8月：現状・課題整理／他市町村事例調査・研究 10月：R3年度事業仮スケジュール検討 12月～2月：R3年度事業実施可否及び単発事業検討・決定 ②姉妹都市交流 R2.9月：東京オリンピック（当初予定）と時期重複のためマインブルク市学生訪問団の来市中止決定 3月：新型コロナウイルスの影響によりコロラド博物館（グリーリー市）訪問団の来市中止決定 5月：マインブルク市長退任及び就任祝いメッセージ送付 グリーリー市「のりこえよう守谷」プロジェクト参加 7月：ホームステイ受入マニュアル改訂 9月：マインブルク市との姉妹都市締結30周年記念事業企画 10月：記念事業準備 小学校クリスマスカード交換交流検討（連携：指導室） 11月：「守谷市×マインブルク市 姉妹都市締結30周年記念ウィーク」開催 12月：姉妹都市へのクリスマスカード送付 1～3月：R3年度単発事業検討・決定
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①青少年海外派遣 応募者数を増加させるために、市内中学校・高校等にチラシを配布するなど周知方法を工夫する。また、今後広く市民に機会を与えられるよう、個人のホームステイ・留学等に対する支援・助成金事業に転換することも一つの案として検討していく。 ②姉妹都市交流 アメリカ（グリーリー市）についても、市民がその文化に興味を持ち、理解できるようなイベント等を実施する。指導室と連携して、両市の小学校交流を促進させる。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☒削減	新型コロナウイルスの影響で、グリーリー市学生訪問団の来市の中止が決定していることや、マインブルク市への青少年海外派遣の実施が困難だと判断されることから、必要最低限の予算計上とするため。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
①青少年海外派遣事業 ・事業終了後の、継続的な国際交流への参加率が低い。 ・海外旅行が身近になったことや、国際情勢等の時事的影響により、事業が大きく左右されることから、臨機応変に対応できるよう事業の縮小を検討する必要がある。 ②姉妹都市学生訪問団の来市 ・受入家庭の募集において、新規参入者が増加傾向にあることから、市のサポートを充実させる必要がある。	・青少年海外派遣事業・姉妹都市学生訪問団の来市ともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。 ・マインブルク市との姉妹都市締結30周年を記念して、庁舎内の装飾や、記念展、国際交流員の特別イベントを開催した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
国際交流関連事業の延べ参加者数（人）	1, 219. 00	1, 148. 00	1, 627. 00	2, 026. 00	1, 745. 00	1, 259. 00	1, 500. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	新型コロナウイルス感染症拡大の影響でメイン事業が中止となり数値は前年度を下回ったが、姉妹都市締結30周年記念事業や国際交流員事業等、コロナ禍でもできるイベントを実施したことで一定数の参加者を得ることができた。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☒ 縮小 ☐ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、依然として国際的な人の往来は難しい。必ずしも直接的な交流にこだわらず、オンラインでの交流など社会の変化に伴い新しい交流の形を検討していく必要がある。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	3,748	3,700	2,010	2,059	3,800
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	2,375	2,202	2,010	2,059	2,400
	一般財源	1,373	1,498	0	0	1,400
正職員人工数（時間数）		1,655.00	1,721.00	739.00	0.00	1,700.00
正職員人件費		6,910	7,061	2,991	0	0
トータルコスト		10,658	10,761	5,001	2,059	3,800